凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和５年度
第５号（９月号）

このクギの穴は残っているんだ

校長　椿　智絵

長い夏休みが終了し、２学期がスタートしました。皆さんは、今年の夏休みは新型コロナウィルス感染症の制約がほぼ解除され、コロナ前に準じた計画を立てることができるようになり、それぞれ充実した毎日を過ごしたことと思います。今日は、皆さんが元気に登校してくる姿を見て、夏休みでの成長をうれしく思いました。しかし、全国的に新型コロナ感染症の拡大がみられています。２学期も、１学期以上に気を引き締めて、手洗い・換気などの感染症対策に取り組み、第二中学校の活発な教育活動を進めていきましょう。生徒の皆さん、一人一人の自覚と責任ある行動に期待しています。感染防止対策に引き続きご協力ください。

さて、今回は、大村はま先生の「灯し続けることば（小学館）」から「このクギの穴は残っているんだ」を紹介したいと思います。

アメリカの有名な大統領「ワシントン」の少年のころのエピソードです。ワシントンは、斧の切れ味を試してみたくなりお父さんが大切にしていた桜の木を切ってしまいます。この話のように、ワシントンは相当ないたずら坊主だったようです。

困ったお父さんは、ワシントンを呼んで「これからおまえが悪いことをしたら、このキッチンの柱にクギを一本打ち込む。その代わり、いいことをしたら、一本抜く」と言いました。こうすれば、いたずらは減ると思ったのでしょう。しかし、なかなかいたずらはやまず、柱はクギだらけになりました。

やがてワシントンも考えるようになり、優しい心を見せたり、人を助けたりするようになります。そのたびにお父さんは黙ってクギを抜きました。減ったり増えたりが続いて、ある日、とうとうクギは一本もなくなりました。

お父さんはワシントンを呼んで、柱をなでさせ、「お前は本当にいい子になった。ごらん、クギはもう一本もない」。ワシントンもニコニコになりました。

「だけどね」とお父さん、「クギは一本もなくなったけれど、このクギの穴は残っているんだ。神様でなければ、この穴をもと通りにすることはできないんだよ」

ワシントンはそれから一生涯、クギを抜けばいいのではなく、クギを打ち込んではならないという考えを心に持っていたと言います。

このお話では、行動の良い・悪いをクギ・クギを抜いた痕で見える化していましたが、学校生活の中では、「言葉」も同じだと思いました。出てしまった言葉で心が傷つき、いつまでも心に痕が残ることがありそうです。

行事の多い２学期です。クラスで取り組むことがたくさんあります。１人じゃないから思いがうまく伝わらないことがあるかもしれません。時間がかかるかも知れないし、勉強や部活動や習い事もあるから時間配分が難しいかもしれません。でも、今のクラスでやれることを全力でやって欲しいと思います。その際、自分の行動、自分の言葉に少しだけ責任を持ってください。出てしまった行動や言葉はなくなりません。

仲間と一緒に最高の充実感と達成感を味わえるように頑張っていきましょう。頑張りの先にはいつまで経っても忘れることのない思い出の一つになるはずです。２学期も二中生の活躍に期待したいと思います。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp

凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和５年度
第５号（９月号）

このクギの穴は残っているんだ

校長　椿　智絵

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp